

愛知守山自然の会

白い花が

春の到来を告げる

貴重なマメナシを後世に

日本国内で東海地方にしか自生しないマメナシ。そのなかでも守山区は、名古屋市内でありながら貴重な自然が今も残る、マメナシの一大群生地です。植物や自然環境を次世代へ残そうと活動する愛知守山自然の会。春を迎え、ぷっくりと小さな花芽を付けはじめたマメナシの木の前で話を聞きました。



① 実から発芽したマメナシ。成木になるまで10年以上の年月が必要です ② 直径にして約2~3cmの小さな白い花を咲かせます ③ 秋になるとナシの品種、長十郎によく似た実を付けます ④ 他の場所から移植した後、見事な花を咲かせたマメナシ

絶滅危惧種のマメナシ 希少種を今も守る守山区

桜が町中で咲き誇る頃、競い合うかのようには小さく白い花を咲かせるマメナシ。樹高約10mにもなるバラ科の植物で、枝にはトゲがあります。秋になると、1cmに満たないナシに似た形の実を付けます。「豆のよう



スポーツセンター東側通路にあるマメナシ。樹齢150~200年といわれ、シンボルツリーとして親しまれています

に小さなナシ」を付けるためマメナシと呼ばれるが、自生地のひとつである三重県桑名市ではイヌナシとも呼ばれています。

マメナシが日本で自生しているのは、愛知、岐阜、三重の東海3県のみ。環境省レッドデータブックで絶命危惧IA類に指定される、希少な植物です。3県で80カ所に350株

花の花粉を使った受粉が必要になります。しかし、単木で生育しているマメナシが多く、実も渋いため鳥が運ばず、発芽はあまり期待がもてません。そのため、愛知守山自然の会では、単木で育っているマメナシが落とした実が自然と発芽して、幼木になる手助けをしています。

愛情をかけて見守りながら 人の手で生育をサポート

「マメナシは、解明されていない点が多く、非常に多い植物です。豊富な水と光を必要とし、通常は沼や池とい

つた水辺に自生しています」。広い小幡緑地公園内には、発見されていないマメナシもあるとされています。今年2月には、生い茂った草木を伐採中に背の低いマメナシを発見。長年、小幡緑地で活動してきた愛知守山自然の会であっても、日々、新しい発見の連続です。

愛知守山自然の会は2004年に6人で発足。現在は39人が在籍しています。初期には5~6年かけて、他の自生地でマメナシの調査を進め、小幡緑地を中心に尾張北部、三重県多度などで保全活動をしてきました。

の群生地のなかでも、重要な場所です。

成木から実が落ち発芽するマメナシ。「バラ科の植物に多く見られるのですが、マメナシは自家不和合性」といって自家受粉しにくい特徴があります」と代表の石原則義さん。花粉が同じ花の柱頭に付くのが自家受粉ですが、これが難しい場合は他の

2010年頃からは、守山生涯学習センターと連携して自然ふれあいマスタ制度を設定。過去2回、講座を開き、会員数が増加。それによって、月2回のマメナシの保全など、継続した活動ができるようになりました。

冬は、発芽を促すために木の周りの落ち葉拾いや下草を伐採。成木になると横に枝を広げる特性があるため、近くにある背の高い雑木の枝葉を落として、光が当たるよう手厚く守ります。また、成木周辺をロープで保護したり、説明看板を設置したりしました。「花が咲く春と実を付ける秋以外は、マメナシが貴重な植物であることは、園内を散歩される方も気付かないものです。広く存在を知ってもらおうと看板を設置しました」。

2014年度には、守山区城土町の民地で自生していたマメナシが民家建設により伐採されるという情報を聞きつけ、地主、農協、造園業者の力を借りてウツクエ湿地へ移植。樹齢約60年の命を救いました。「移植時に根を切ったので、移植後から2年間は花が咲きませんでした。でも、昨年の春に花を咲かせてくれたんです。とても嬉しかったですね」と石原さんは笑顔を見せます。

4月の自然観察会は マメナシでお花見を

鳥や虫、植物が活動をはじめ春になりました。マメナシ以外にも、小幡緑地内のせせらぎ湿地では、ハルリンドウやサイフリボクといった

同時期に小幡緑地で見られる花

サイフリボク
Amelanchier asiatica

マメナシと同じく白い花を咲かせる

ハルリンドウ
Gentiana thunbergii

せせらぎ湿地で見られる春植物



Information

愛知守山自然の会
自然観察会 毎月第2土曜日の10:00~11:45で実施
4月8日(土)「マメナシの花と観察」
5月13日(土)「小幡緑地に咲く白い花と昆虫を探そう」
※当日は小幡緑地本園トンボの時計台前に9:45集合
参加費 100円(資料・保険代、子どもは無料)

守山自然ふれあいスクール
「まめなしのお花見&観察会」
4月2日(日) 10:00~12:00(受付9:30~)
集合場所/ 権ノ浦公園(名鉄瀬戸線「大森・金城学院前」駅から徒歩5分)
観察場所/ 雨池公園、経池 定員/ 60人
問い合わせ/ 守山区役所地域推進室(052-796-4524)

美しい花々が目を楽しませてくれます。会では小幡緑地全体の自然に触れてもらおうと、毎月、自然観察会を実施。夏は水辺で遊んだり、秋はドングリを使った工作教室を開いて、四季の移ろいを伝えていきます。5年前からは、植物を身近で見てもらいたいと、手づくりの木道を設置。この取り組みは一般財団法人公園財団の「公園・夢プラン大賞2016 実現した夢部門」に入選しています。「会の活動は10年を超え、少しずつですがマメナシが自然に世代交代する下地ができたと思う感じがしています。4月の観察会はみんなで満開のマメナシを見ようと思っておりますので、ぜひご参加ください!」と呼びかけます。まだマメナシを見ることがないという人は、この機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。真つ白に着飾ったマメナシの木の前で、会の皆さんの愛情たっぷり解説を聞いてください。



愛知守山自然の会でマメナシを担当する会員の鹿住坦さん(左)と会長の石原則義さん